居室と色彩環境

北陸における青年の居室色彩調査より。

山岸政雄

（序）

色彩環境，つまり色彩を使う営みによって生まれてくる環境から，何らかの社会の仕組みや，成員の意識との関連を読みとることができるのではないかと試みたのが調査研究の目的である。(1)

社会はたえず流動変化を繰り返している。そこでは，家族や地域，政治，経済，制度など，その社会を形成している因子が，成員の行動によって左右され様相を変えていく，これら社会構造の変化は，景観のような外観として見えるものゝ空間，形態にもかかわり得ると考えられる。たとえば，家父長制の是正による諸子均分相続の承継制度は，核家族現象を促し，結果として持ち家意識を生み，集住圏を拡げた。それが村の姿や町の顔を一変させた。また，大規模な経済刺激策は，政治とかかわって，日本列島の風景や景観，環境を変えつつあることは周知の事実である。

因果関係から生ずる位相は，必然的に内部空間へも及ぶことが想定されるが，そこにどのような空間，形態と接合した色彩環境が生じているかを，青年の居室を事例として調査し，社会の仕組みや成長の変化と重ね合わせて，何らかの像を浮き彫りにできればと考えた。

計画と方法

急激に変容していく生活や住いが，北陸地方を中心とする日本海沿岸でどのように受けとめられているかについての総合研究セミナー(2)の一環として居住空間内部色彩環境調査「日本海時代その暮らし……環境と色彩」を計画することから開始された。

1）調査期日—1977年9月～1978年6月

2）調査の対象

年令　男（19.9才）　女（18.9才）

性別　男（57名）　女（139名）　計 196名

職業　勤め（18名）　学生（178名）

地域　石川県（175名）富山県（19名）その他（2名）市街（166名）農村（28名）漁村（2名）

建物　木造（166）鉄筋（21）その他（9）

所有　持ち家（131）　借家（65）

年代　明治（7）　大正（5）昭和（184）

問い—　あなたの部屋の色彩に関心がありますか。

ある—男（50名）　女（103名）

ない—男（9名）　女（34名）

参加・協力者

日本海時代セミナー出席者，その家族。

金沢女子短期大学　生活デザイン専攻学生

金城短期大学美術科学生

金沢美術工芸大学産業美術学科学生

3）資料蒐集

色彩をプロットするにあたり，調査表と色紙を渡し，直接視感比色選択をした。色紙は，「日本色研いろがみ」48色組を使った。多数サンプルの作業の標準化および，未経験者に対しての理解の促進のためである。

調査表＝平均6帖間を想定した展開図（別図）

調査表に貼る色コマ数—66（24㎜×24㎜）回許容範囲をはずれたものは，自由採色によるものを表示させ，集計では「その他」とした。

4）観察対象と基準

たたみ，カーペット，ふすま，窓ガラス，天井のほか，家具調度，身の廻り品が予想されるが，口答および付記されたものは次の通り。

・基調となるもの（机，椅子，本箱，洋服ダンス，ステレオ，ベッド，電気ごたつ，ストーブ，

ライトスタンド，カーテン，照明器具）

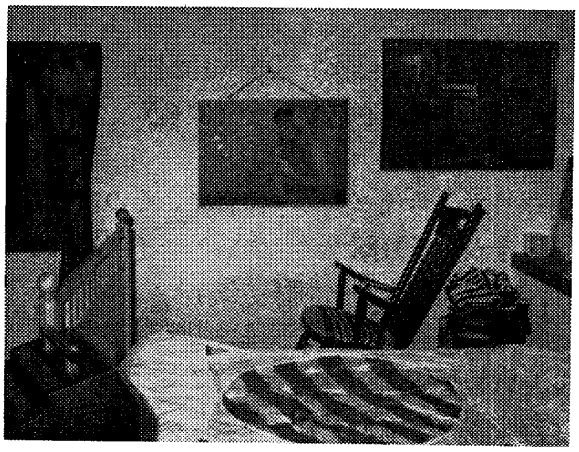
・男性に多いもの(冷蔵庫，テレビ，クーラー)

・女性に多いもの（整理ダンス，鏡台，人形ケース，クッション，時計）・その他（ポスター，カレンダー等）

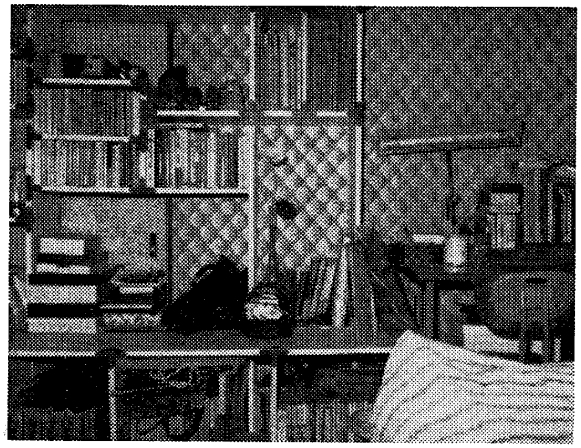
観察は，調査表に示された目線の分割量に忠実になるよう指示した。

室内に昼光の最もよく入る時間帯を基準とし，窓のカーテンは開き，小窓または窓無しの部屋については点燈すべきことゝした。

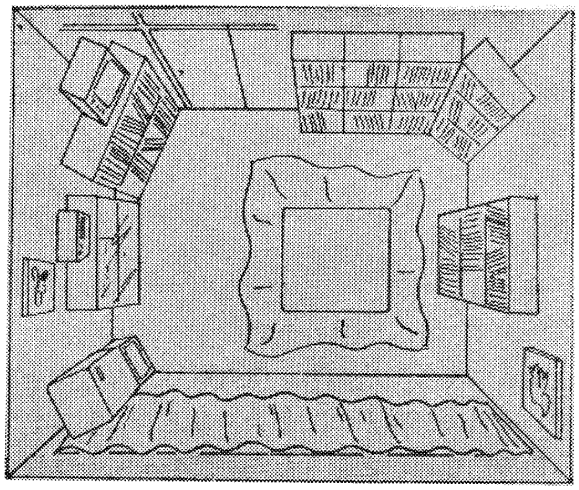
北陸地方は，夏は高温多湿，冬は暗く冷たい日が続き，降雪も多い。爽やかで快適な日は，春と秋に若干残されるのみといった住居をとりまく気候条件である。多雨（年間約2,600㎜）



事例—男



事例—女



平均的居室図

に備え庇を長くしたり，降雪に備え柱を太く，天窓を構えて明り採りを工夫する等々。これらは風土の気象に影響されて，内部空間の在り方を規定することゝなる。また，この地方は，家，屋敷の戸当り面積に比較的恵まれている。たとえば，金沢地域においては，およそ110㎡から120㎡の家が多く，また，持ち家率も6割を越えて居住環境は安定している。(3)家の大きさは，所有地の広さを類推させ，庭木などにみられる個人の自由裁量の空間を生み，それを前提とした居室環境が成立する。雪見障子などの生れる所以であろう。しかし，これらの伝統的居住空間は，次第に狭くなりつつある現状と併せ，被験者に，内部空間が外部空間に嚮導される環境の構造を説明し準備に入った。

5）集計（別表）百分率による。

調査用紙依頼数—270名

回収数—196名（70.4%）

男性—57名，女性—139名

採用数—114名（色コマ数7524）

集計対象は両性の差異を分析するために，今回は，男性の57名に合わせ，女性の回答からランダムに57を抜きとりサンプルとした。残り82は参考資料とし，男性の回収増をみたときに，対応して本統計に組み込んでいく。

男性

No.	色名	A
1	あか	.6
2	しゅいろ	.6
3	だいだい	.9
4	やまぶきいろ	1.2
5	きいろ	1.8
6	ひわいろ	.5
7	きみどり	1.3
8	みどり	.9
9	あおみどり	.2
10	あさぎいろ	1.2
11	あお	.9
12	あおむらさき	.5
13	むらさき	.2
14	あかむらさき	.5
15	ピンク	.9
16	はだいろ	.1
17	クリーム	3.4
18	シトロン	5.0
19	うすみどり	3.1
20	みずいろ	1.8
21	そらいろ	3.1
22	ふじいろ	.1
23	あかるいあか	.5
24	さんごいろ	.5
25	ひまわりいろ	3.3
26	わかばいろ	1.1
27	ターコイス	.8
28	あかるいあお	2.7
29	ももいろ	.6
30	えびちゃ	.0
31	レンガいろ	8.1
32	ちゃいろ	6.3
33	おーどいろ	2.9
34	くさいろ	3.7
35	ふかみどり	.6
36	こんいろ	.2
37	ワイン	.9
38	あかみのはいいろ	2.0
39	うすいベージュ	11.6
40	ベージュ	1.0
41	ぞうげいろ	6.4
42	きみのはいいろ	1.2
43	あおみのはいいろ	.3
44	しろ	10.7
45	あかるいはいいろ	.1
46	はいいろ	2.4
47	くらいはいいろ	1.0
48	くろ	1.8
49	その他	.70

(%)

・男性（全体）

被経験者の平均年令は19.9才であったが，彼等が色彩体験を蓄積しはじめた4才～5才の頃（1963～1964年）には「もはや戦後ではない」（1956年国民生活白書，経企庁）といわれ，そのことが東京オリンピック（1964年）や，豊かな商品群となって実現し始めた。1960年に本格化したカラーテレビは，1,500万台もの普及をみた。身辺の商品は，繊維，化粧品，日用品雑貨をはじめ，あらゆる商品に，色彩が販売効果の担い手として用いられるようになった。

ことに，カラーテレビを観て育ってきた代表的世代であり，色彩指向が注目される。

「あか」から「あかむらさき」にいたる，さえたトーンに平均的分布がみられるのと，「クリーム」や「シトロン」をピークにしたうすい系統に注目できる。これは，女性にとっても同様に特徴的である。基幹色として顕現している，セピアゾーンや「しろ」は，年間平均が78％といわれる，高温多湿な気候現象と，木造建築の多さを背景として，地人相関の相貌を呈した色彩現象である。

男性の床

No	色名	B
1	あか	1.8
2	しゅいろ	1.6
3	だいだい	1.3
4	やまぶきいろ	2.8
5	きいろ	.0
6	ひわいろ	1.9
7	きみどり	1.3
8	みどり	2.2
9	あおみどり	.0
10	あさぎいろ	4.0
11	あお	2.1
12	あおむらさき	.0
13	むらさき	.0
14	あかむらさき	.3
15	ピンク	1.6
16	はだいろ	.0
17	クリーム	2.6
18	シトロン	.7
19	うすみどり	3.7
20	みずいろ	.6
21	そらいろ	1.0
22	ふじいろ	.3
23	あかるいあか	.9
24	さんごいろ	.9
25	ひまわりいろ	7.0
26	わかばいろ	2.1
27	ターコイス	1.2
28	あかるいあお	.0
29	ももいろ	.0
30	えびちゃ	.0
31	レンガいろ	5.3
32	ちゃいろ	5.3
33	おーどいろ	5.7
34	くさいろ	1.5
35	ふかみどり	.0
36	こんいろ	.2
37	ワイン	2.5
38	あかみのはいいろ	3.1
39	うすいベージュ	11.1
40	ベージュ	1.8
41	ぞうげいろ	5.9
42	きみのはいいろ	.0
43	あおみのはいいろ	.0
44	しろ	2.3
45	あかるいはいいろ	.0
46	はいいろ	3.7
47	くらいはいいろ	.2
48	くろ	2.1
49	その他	7.40

(%)

・男性（床）

床の色を計量することは，壁，天井にくらべ不確定要素が余りにも多い。なぜなら，たたみ，カーペット，板敷きの違いに加え，洋風，和風の材質感の違い，テーブルや座卓,座椅子,座布団の時間帯毎の移動など，可変を前提として成立しているディメンションだからである。ちなみに，一般的な家庭における居室家具の所有種類は，テレビ，ステレオ，クーラー，ストーブ，ヒーター，オルガン，ピアノ,テーブル，コタツ，机，ソファ，サイドボード，鏡台，ベッド，カーペット，本棚，洋ダンス，和ダンスなどであるが(4)，このセクションにおいては，「あか」に始まる有彩色がデーターを押し上げていることが目立つ。

「くろ」の多いのは，音響機器類であり，若者指向が端的に表われている。

「あか」から「あお」にいたるさえた系統は，ベッドカバーの色彩で，寝具にベッドがいかに多く使われているかを示している。女性の場合は，この傾向はより顕著になっている。

男性の壁

No	色名	C
1	あか	.4
2	しゅいろ	.1
3	だいだい	.9
4	やまぶきいろ	.6
5	きいろ	2.8
6	ひわいろ	.2
7	きみどり	1.5
8	みどり	2.8
9	あおみどり	.3
10	あさぎいろ	.7
11	あお	.8
12	あおむらさき	.7
13	むらさき	.3
14	あかむらさき	.7
15	ピンク	1.0
16	はだいろ	.0
17	クリーム	4.3
18	シトロン	6.6
19	うすみどり	3.9
20	みずいろ	2.6
21	そらいろ	3.2
22	ふじいろ	.8
23	あかるいあか	.5
24	さんごいろ	.2
25	ひまわりいろ	2.6
26	わかばいろ	1.1
27	ターコイス	.9
28	あかるいあお	4.2
29	ももいろ	1.0
30	えびちゃ	.0
31	レンガいろ	7.0
32	ちゃいろ	5.8
33	おーどいろ	1.8
34	くさいろ	5.3
35	ふかみどり	.9
36	こんいろ	.2
37	ワイン	.7
38	あかみのはいいろ	1.7
39	うすいベージュ	10.0
40	ベージュ	.9
41	ぞうげいろ	3.9
42	きみのはいいろ	1.9
43	あおみのはいいろ	.5
44	しろ	11.1
45	あかるいはいいろ	.2
46	はいいろ	2.7
47	くらいはいいろ	1.6
48	くろ	1.8
49	その他	.0

(%)

・男性（壁）

間仕切壁などの内壁の色は，従来からある木造真壁造や，新数寄屋造に日本的感覚をみる。たとえば，土物壁の仕上げにおいて，京壁といわれるくり茶色をした聚楽色土を用いたものや，べんがらなどを使った色しっくい壁，粘性土と石灰の大津壁，関東の根岸壁などである。さらに，色彩効果の演出には，色砂を用いた砂壁や，色糸，内皮の木毛を混ぜたものまで考えられている。北陸の風土を映した，濃く暗い灰味を帯びた室内空間は，ときには辰砂の朱や，紅色の糸の壁，あるいは群青壁をひき込んで，ドラマチックな演出をみせてくれた。しかし，ここに表われた色彩は，二つの傾向を帯びており，一方は「クリーム」「シトロン」「うすみどり」など淡くうすい「きいろ」から「みどり」に至る極めて明るい空間である。住居の新築，建て替えが進むなかでの嗜好がよく出ているのであろう。古代色である白緑の周辺が好まれるのは，日本人の微妙な色彩感覚を反映している。もう一つの側面には，「ちゃいろ」「レンガいろ」「くさいろ」の伝統色をみることができる。

男性の天井

No.	色名	D
1	あか	.0
2	しゅいろ	1.5
3	だいだい	.2
4	やまぶきいろ	1.8
5	きいろ	.0
6	ひわいろ	.0
7	きみどり	.0
8	みどり	.0
9	あおみどり	.0
10	あさぎいろ	.3
11	あお	.0
12	あおむらさき	.0
13	むらさき	.0
14	あかむらさき	.2
15	ピンク	.0
16	はだいろ	.7
17	クリーム	.9
18	シトロン	3.8
19	うすみどり	.0
20	みずいろ	.2
21	そらいろ	4.8
22	ふじいろ	.0
23	あかるいあか	.2
24	さんごいろ	.9
25	ひまわりいろ	1.8
26	わかばいろ	.0
27	ターコイス	.0
28	あかるいあお	.3
29	ももいろ	.2
30	えびちゃ	.0
31	レンガいろ	14.8
32	ちゃいろ	8.8
33	おーどいろ	4.2
34	くさいろ	.2
35	ふかみどり	.0
36	こんいろ	.2
37	ワイン	.0
38	あかみのはいいろ	2.1
39	うすいベージュ	17.4
40	ベージュ	.3
41	ぞうげいろ	15.9
42	きみのはいいろ	.2
43	あおみのはいいろ	.0
44	しろ	17.5
45	あかるいはいいろ	.0
46	はいいろ	.3
47	くらいはいいろ	.0
48	くろ	1.8
49	その他	.0

(%)

・男性（天井）

もともと天井には，色彩の種類が極めて少なくかたよっている。天井機能は，断熱，保温，音響，調整，照明を主としている。大部分の木造家屋は，板張の竿天井を主とし，時折，格縁を用いた格天井も見受ける。そして色彩は，板，布，紙，ボード，テックス，ベニヤなどが主体となって構成されている素朴で簡潔な平面であるため少い。しかし，この調査には，数種類の有彩色が含まれている。「だいだい」「あさぎいろ」「あかむらさき」「みずいろ」「あかるいあか」「あかるいあお」「ももいろ」「くさいろ」「こんいろ」「ベージュ」はポスターや，レプリカ，簡便な壁紙である。西洋における天井画が壁画の延長であるように，若者たちが天井に貼るポスター類は，個室というプライベート空間を，床，壁，天井と区分けなく使って住まうカプセル感覚の侵透である。そこでは，悪臭や視覚の混乱，喧騒を遮蔽し，逃れたいとの願いが裏返しとなって，自身が世間から遠避けられ，自閉してゆく空間を形成しつつあることが，この色彩域から読みとれる。

女性

No.	色名	E
1	あか	1.2
2	しゅいろ	1.0
3	だいだい	1.6
4	やまぶきいろ	1.5
5	きいろ	.5
6	ひわいろ	.5
7	きみどり	1.6
8	みどり	1.0
9	あおみどり	.3
10	あさぎいろ	.4
11	あお	1.3
12	あおむらさき	.0
13	むらさき	.1
14	あかむらさき	.4
15	ピンク	1.5
16	はだいろ	.9
17	クリーム	4.0
18	シトロン	4.3
19	うすみどり	3.1
20	みずいろ	1.6
21	そらいろ	1.3
22	ふじいろ	.6
23	あかるいあか	.2
24	さんごいろ	.6
25	ひまわりいろ	2.3
26	わかばいろ	.4
27	ターコイス	.1
28	あかるいあお	.2
29	ももいろ	.5
30	えびちゃ	.4
31	レンガいろ	5.2
32	ちゃいろ	3.2
33	おーどいろ	7.5
34	くさいろ	1.5
35	ふかみどり	.1
36	こんいろ	.0
37	ワイン	.4
38	あかみのはいいろ	.9
39	うすいベージュ	10.8
40	ベージュ	4.0
41	ぞうげいろ	7.1
42	きみのはいいろ	1.8
43	あおみのはいいろ	.1
44	しろ	12.4
45	あかるいはいいろ	2.9
46	はいいろ	1.9
47	くらいはいいろ	.4
48	くろ	.8
49	その他	5.60

(%)

・女性（全体）

一般に現代女性の色彩嗜好は，幼児期から青年に至るまで，明度が高く，濃度の低い，やや灰味を帯びた色彩が基調になる傾向を示すが，ここでも例外でなかったといえる。ただ，「レンガいろ」「ちゃいろ」「おーどいろ」については高濃度，暗色系であるが，たたみ，板張天井，取付け家具などの個人では移動，改装しにくいものがそのまま表われていると考えられる。「ぞうげいろ」「ベージュ」「うすいベージュ」の地球色系の量が多いのは，「うすいみどり」「シトロン」「クリーム」の抱き合わせで選択されているものと思われる。極めて頻度の少ない，「あおむらさき」「むらさき」「ふじいろ」「あかるいあか」「ターコイス」「えびちゃ」「ふかみどり」「こんいろ」「ワイン」「あおみのはいいろ」「くらいはいいろ」は，平安から江戸時代まで続いた多色対比「女房装束色目」にみる，かさね色目にほぼ相当する。

紅梅（春），菖蒲（夏），桔梗（秋），雲の下（冬），鳥子重（雑）といろよい対比が居室色彩に表われないのは，それらを装いの色と見做しているからであろう。

女性の床

No.	色名	F
11	あか	4.5
2	しゅいろ	4.5
3	だいだい	6.1
4	やまぶきいろ	3.4
5	きいろ	1.8
6	ひわいろ	1.6
7	きみどり	4.0
8	みどり	4.1
9	あおみどり	1.6
10	あさぎいろ	1.6
11	あお	3.1
12	あおむらさき	.0
13	むらさき	.0
14	あかむらさき	1.3
15	ピンク	3.2
16	はだいろ	.4
17	クリーム	6.3
18	シトロン	3.4
19	うすみどり	3.4
20	みずいろ	.0
21	そらいろ	.4
22	ふじいろ	.0
23	あかるいあか	.6
24	さんごいろ	.0
25	ひまわりいろ	3.4
26	わかばいろ	1.5
27	ターコイス	.0
28	あかるいあお	.2
29	ももいろ	.7
30	えびちゃ	.0
31	レンガいろ	6.7
32	ちゃいろ	4.4
33	おーどいろ	5.1
34	くさいろ	3.4
35	ふかみどり	.3
36	こんいろ	.0
37	ワイン	2.1
38	あかみのはいいろ	1.0
39	うすいベージュ	5.9
40	ベージュ	4.1
41	ぞうげいろ	2.1
42	きみのはいいろ	.0
43	あおみのはいいろ	.0
44	しろ	3.5
45	あかるいはいいろ	1.8
46	はいいろ	.3
47	くらいはいいろ	.6
48	くろ	1.0
49	その他	.0

(%)

・女性（床）

床は色彩を決定する以前に，その機能による制約が複雑に先行する。行動形式においては，座式はたたみが主になるが，椅子式になると，敷物類が床仕上げ材料のほとんどを占める。人間が直接触れる部位は，壁，天井にはないものであり，保温，感触，耐久度などが床下地との兼ね合いで検討され決定される。色彩は，その折の生産要素としては，最終段階の範囲における自由度しか与えられぬ場合が多い。したがって表出される色数も限られやすく，ベージュ系の２色および№51「レンガいろ」～№54「くさいろ」は敷物の色彩である。「あか」「しゅいろ」「だいだい」「やまぶきいろ」「きみどり」「みどり」と連続したさえた色は，大部分がベッドカバーのものであり，若者に椅子式（立式）文化が浸透していることが解る。ある部分には，たたみとカーペット，および椅子，机，ベッド，洋ダンスの併用式住まいであることが色彩から読むことができる。出現率０％のものは，「むらさき」のように狭義の意味あいの強いものや，皮ふの色と合わないものなどである。

女性の壁

No	色名	G
1	あか	.6
2	しゅいろ	.3
3	だいだい	.7
4	やまぶきいろ	1.3
5	きいろ	.3
6	ひわいろ	.2
7	きみどり	1.3
8	みどり	.5
9	あおみどり	.0
10	あさぎいろ	.1
11	あお	1.1
12	あおむらさき	.0
13	むらさき	.1
14	あかむらさき	.2
15	ピンク	1.5
16	はだいろ	1.3
17	クリーム	3.1
18	シトロン	5.4
19	うすみどり	3.8
20	みずいろ	2.5
21	そらいろ	1.6
22	ふじいろ	.1
23	あかるいあか	.1
24	さんごいろ	1.0
25	ひまわりいろ	2.6
26	わかばいろ	.1
27	ターコイス	.1
28	あかるいあお	.3
29	ももいろ	.5
30	えびちゃ	.2
31	レンガいろ	2.5
32	ちゃいろ	3.8
33	おーどいろ	9.3
34	くさいろ	1.5
35	ふかみどり	.0
36	こんいろ	.0
37	ワイン	.1
38	あかみのはいいろ	.8
39	うすいベージュ	10.6
40	ベージュ	3.1
41	ぞうげいろ	7.9
42	きみのはいいろ	2.3
43	あおみのはいいろ	.2
44	しろ	15.0
45	あかるいはいいろ	1.8
46	はいいろ	3.0
47	くらいはいいろ	.3
48	くろ	1.0
49	その他	5.9

(%)

・女性（壁）

この項で出現しなかったのは，「あおみどり」「あおむらさき」「ふかみどり」「こんいろ」である。それぞれ，松葉色（江戸）桔梗色（平安）常盤色（古代）勝色（古代）といった，さえて，くらい日本伝統色の範たるものばかりである。

若者の空間にこれらが少いのは，カラーテレビ時代に育った最初の世代として，輝度のない色彩が，若者向けの色彩商品に使われていなかったための結果であろう。さらに，女性(全体)の項で触れた，伝統色といわれる慣習的位置づけ感覚によるものもある一方，多く用いられているものは男性と共通する点が多い。ただ「レンガいろ」の少ないのは，タンス，鏡台など明度の高いものが多いためであり，「おーどいろ」と「ぞうげいろ」の多いのとが証明している。「ぞうげいろ」の多さは，たたみの座式生活を意味し，男性と異り，和風が好まれていることがよく解る。「しろ」のおとなしく，カーテン地もレースのようなのが多く，データーを押し上げる原因となっている。「その他」の多いのは，若い女性の多様な選択である。

女性の天井

No	色名	H
1	あか	.0
2	しゅいろ	.0
3	だいだい	.3
4	やまぶきいろ	.3
5	きいろ	.0
6	ひわいろ	.0
7	きみどり	.0
8	みどり	.0
9	あおみどり	.0
10	あさぎいろ	.0
11	あお	.0
12	あおむらさき	.0
13	むらさき	.0
14	あかむらさき	.0
15	ピンク	.0
16	はだいろ	.0
17	クリーム	5.0
18	シトロン	1.5
19	うすみどり	1.5
20	みずいろ	.0
21	そらいろ	.9
22	ふじいろ	.0
23	あかるいあか	.0
24	さんごいろ	.0
25	ひまわりいろ	.0
26	わかばいろ	.0
27	ターコイス	.0
28	あかるいあお	.0
29	ももいろ	.0
30	えびちゃ	1.6
31	レンガいろ	13.2
32	ちゃいろ	.0
33	おーどいろ	3.4
34	くさいろ	.0
35	ふかみどり	.0
36	こんいろ	.0
37	ワイン	.0
38	あかみのはいいろ	.7
39	うすいベージュ	16.4
40	ベージュ	7.5
41	ぞうげいろ	9.7
42	きみのはいいろ	1.6
43	あおみのはいいろ	.0
44	しろ	12.4
45	あかるいはいいろ	8.0
46	はいいろ	.0
47	くらいはいいろ	.6
48	くろ	.0
49	その他	15.4

(%)

・女性（天井）

「クリーム」「レンガいろ」や明るいセピア系3色（うすいベージュ，ベージュ，ぞうげいろ），明るい無彩色(しろ，あかるいはいいろ)が基調をなしているのは（72.2%）日本家屋の今様を，色彩がほぼ語っているものとみてよい。しかし残りの約3割弱には，「だいだい」「やまぶき」「えびちゃ」「ちゃいろ」「おーどいろ」「くさいろ」など，さえた色や，濃くて暗い色が用いられていることは，伝統色の意味内容が次第に輝度の高いものに変わりつつあるように，伝統的空間配置と相対する面の持っている意味が変わりつつあることを示している。

「その他」（15.4%）の中には，48の色域にさえも比色該当しない物体色が用いられているわけで，相当広い範囲が想像される。未出の色域数は65%程と多いが，その他の項が明確になるときには，全色域にわたって天井は彩色される。男性の天井にはその行動的背景と相俟って，すでに兆しがみえていることは先に考察した。

全体

No	色名	I
1	あか	.89
2	しゅいろ	.80
3	だいだい	1.22
4	やまぶきいろ	1.34
5	きいろ	1.14
6	ひわいろ	.45
7	きみどり	1.41
8	みどり	.98
9	あおみどり	.27
10	あさぎいろ	.80
11	あお	1.05
12	あおむらさき	.23
13	むらさき	.09
14	あかむらさき	.43
15	ピンク	1.22
16	はだいろ	.53
17	クリーム	3.71
18	シトロン	4.68
19	うすみどり	3.10
20	みずいろ	1.66
21	そらいろ	2.18
22	ふじいろ	.32
23	あかるいあか	.33
24	さんごいろ	.53
25	ひまわりいろ	2.76
26	わかばいろ	.70
27	ターコイス	.43
28	あかるいあお	1.46
29	ももいろ	.53
30	えびちゃ	.21
31	レンガいろ	6.7
32	ちゃいろ	4.74
33	おーどいろ	5.20
34	くさいろ	2.60
35	ふかみどり	.31
36	こんいろ	.11
37	ワイン	.65
38	あかみのはいいろ	1.42
39	うすいベージュ	11.16
40	ベージュ	2.50
41	ぞうげいろ	6.74
42	きみのはいいろ	1.50
43	あおみのはいいろ	.20
44	しろ	11.54
45	あかるいはいいろ	1.52
46	はいいろ	2.18
47	くらいはいいろ	.72
48	くろ	1.33
49	その他	3.43

(%)

・全体

色彩が目にとまったり，記憶に残ったり，行動を促す動機になったりするときには，少くとも置かれた環境内において，およそ3％の量が必要とされている。総和としてプロットされたものは，1「しろ」（天井，壁），2「うすいベージュ」（床，天井，壁）3「ぞうげいろ」（壁，天井―女），4「レンガいろ」（床，天井）5「おーどいろ」（壁―女）6「ちゃいろ」（床），7「シトロン」（壁）8「クリーム」（床，天井―女）9「うすみどり」が上位である。木造建築の中で，天井は「うすいベージュ」壁は「ちゃいろ」または「しろ」，床は「ぞうげいろ」のたたみか，「レンガいろ」のカーペットに「ちゃいろ」の家具調度，「シトロン」のカーテンといった室内の代表的な色彩環境がイメージとして読みとれる。これは，日本の伝統色について，草木染の染列を比色した結果(5)と重ねると，出現率の高い「おーどいろ」の馴みが高く，トーンについては，「レンガいろ」「おーどいろ」が該当する。他に，にぶい系統の，錆浅葱，納戸色，錆納戸，古代紫，梅紫などは意識に上ってこない。

考　察

現象としての，室内色彩の表われ方は，たたみ，合成樹脂床，じゅうたん（パイル，カーペット等），各種壁装材（紙,布,プラスチック），金属類（ステンレス,アルミニウム—サッシュ，ブラインド，照明ルーバー），家具調度を占める木材類などの物体色，板ガラスや熱線吸収ガラス，強化ガラスに及ぶ建築用ガラスによる透過されたさまざまな色,小さな部分ではあるが，鏡映色や鑑賞用水槽にみられる空間色，照明光の下で演色される色彩現象など，およそ，20～25㎡の小さな空間が，さまざまな色彩現象で覆われていることが確認される。室内に色彩効果を不断にとり入れることについての願いは，歴史の中でも洋の東西を問わない。たとえば，複雑極まる色彩世界を，洗練された風土色に置き換えていったアラビアの絨毯には，，それを運ぶ十字軍の昔が回想され，敷かれたものゝ色に歴史が滲み出ているようである。

西洋を日本流に置き換えることに何の疑いも持たずにきた日本文化にも，色彩における見事なとり入れをみることができる。カーテンなどのインテリアファブリック（Interior fabrics）には，中世ヨーロッパの室内に色彩を持ち込んだタピストリー(垂幕)のイメージが同居する。カラーテレビはまた動くステンドグラスであり，ここにもヨーロッパ中世の透過色のイメージを重ねることができる。

さまざまな色彩現象に囲まれた若者たちの居室は，総じてうすいベージュ，象牙色,煉瓦色，黄土色といった極めて日本の伝統を継承する色彩域を基調に演出されてはいるが，いまや，陰翳礼讃の色彩文化は新しい秩序として生れ代ることが模索されねばならなくなった。青年の感覚を刺激し，選択させる社会環境は，社会構造においても急激な変化を招いている。たとえば，社会の因子とその成因の角逐は，家族における親子間の断絶や離婚の増加，地域エゴといわれる権利回復欲，インフレのような政治や経済機能の衰退変動，進学戦争や学歴偏重にみられるより高い階層への帰属追従の指向激化，3割自治に象徴される中央集権制度に対する地方制度の見直し論などである。

さらに，個別の状況になると生活空間の占有状況については,住居において1人当り7.3畳，独身者のような間借りでは4.3畳と狭い。(6)

生活時間内における睡眠を除いた居室を主とすると思われる時間（交際，休養，レジャー，本，ラジオ，テレビなど）は，平日20代男，6時間37分（テレビ2時間27分），女，6時間33分（テレビ3時間9分）(7)とテレビを相手に過ごす時間が，睡眠，仕事に次いで長く，食事，身の廻りの用事，学業，家事，移動の人間生活に不可欠な要素を上回っている。当然のことながら，情報入手の方法は，20代(男)テレビ92.2％，（女）93.5％と新聞以外の入手経路を大きく引き離している。また,国際比較においても，日本の若者はテレビ好きで首位である。

このような，若干の社会要因の事実の組み合わせから推論しても，現今の青年たちが置かれている環境は，狭い個室にかなり一方通行の情報と，創作加工余地に乏しい，大量々産品の狭間にあって逡巡しているといった姿が浮んでくる。

したがって，このような閉塞状況と，感覚の働きによって知ることの出来る，見えるものとしての色彩現象を重ねるなかで，因果関係が明らかにされたとき，色彩を使う営みによって生れる環境が甦える。

（註）

(1) 外部都市空間への試み—
M. YAMAGISHI AND Y. MORI "COLORS OF THE HISTORICAL CITY OF KANAZAWA, JAPAN" COLOR 77 P. 377.
ADAM HILGER LTD, BRISTOL, ENGLAND, 1978.

(2) 1974年より，勤労青年，学生を対象に毎年開講（石川県立白山青年の家）

(3) 田中，島村，山岸「伝統都市の空間論—金沢」P.240弘詢社（S.51）

(4) 石川県住まい方調査「家具所有状況」石川県建築課（1978年）

(5) "Color" No.34, P.4 日本色彩研究所報（1976）

(6) 総理府「国勢調査」1％抽出集計による推計値。

(7) 国民生活センター「生活意識に関する研究」（昭和50年3月）複数回答方式。

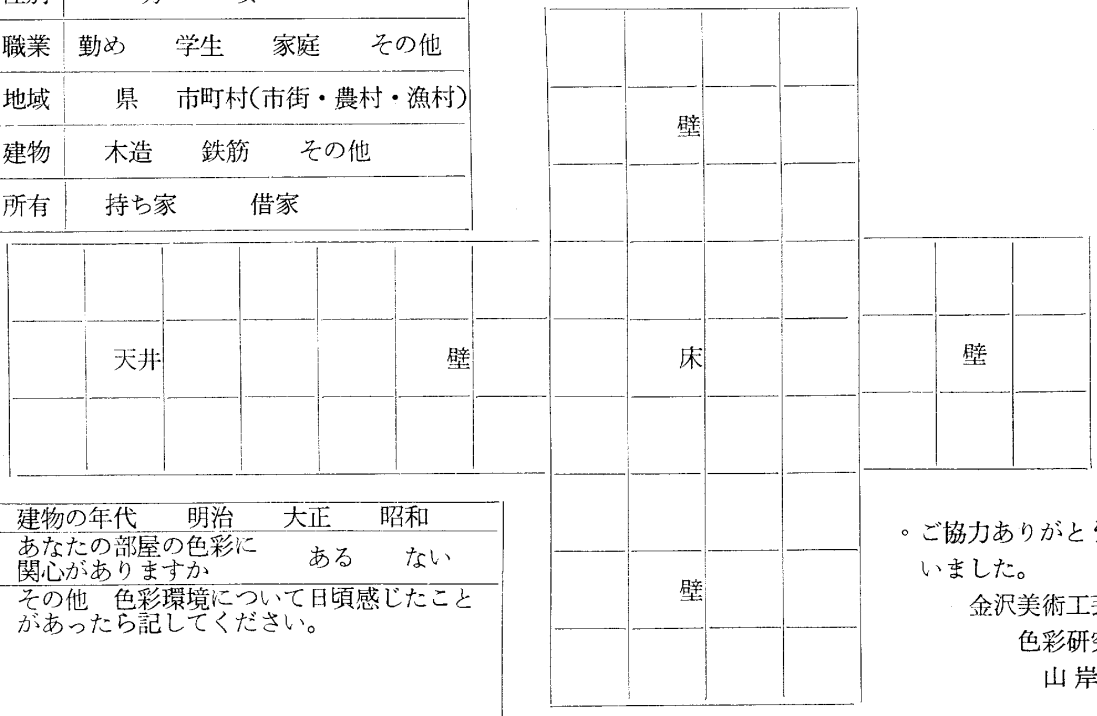
・事例写真図版提供—北陸放送TV

色彩環境調査 ——私の部屋

昭和53年　月　日

・ご記入は○印をおつけください。

1 年令	才
2 性別	男　女
3 職業	勤め　学生　家庭　その他
4 地域	県　市町村(市街・農村・漁村)
5 建物	木造　鉄筋　その他
6 所有	持ち家　借家



7	建物の年代　明治　大正　昭和
8	あなたの部屋の色彩に関心がありますか　ある　ない
9	その他　色彩環境について日頃感じたことがあったら記してください。

。ご協力ありがとうございました。

金沢美術工芸大学
色彩研究室
山岸政雄

（別園）調査表（216㎜×336㎜）